

昭和14年10月1日（日）

興亜奉公日第二回目。郊外散策登山隊にて、名所旧蹟山岳地帯は人の山を築く。市外電車バス等は割引。道子澄子は正岡氏と油山に遠足、久子は休暇にて友達と雁の巣飛行場に行きたり。余独り留守居、御握り調製等にて十時過ぎ出掛けたり。快晴、微風ハイキングの好適と認めたり。前日何心なく油山に誘へしに、既に約束したる旨にて、遂に余留守居となる。此の朝比恵に至り、福岡中継所の建物を観て、工場地帯を通り橋畔より引返し、定時に着く。午後五時二十分頃、手紙投函後、表の扉を直し居たる際、久子販り来る。久子に飯を煮直させ居たる六時頃、漸く道子等足を引摺るようにして販来。頂上に登らざりしと云ふ。大方バス往復にて来着の由。人出頗る多かりしと云ふ。昨夜より蚊帳を廃す。一二匹残り居るようだが、苦になる程度に非らず。

昭和14年10月2日（月）

朝大橋停留所まで行き、定時二十分遅れて販る。あの附近状態市街らしくなり、今昔の感に不堪のものあり。久子午後より出務。岸田氏宛注文票要求す。蚊帳表に出して乾燥手配す。朝の間多少雲漲りしも、次第に晴天となる。道子市場に買物に行き、魚割高なるも求め来る。九時寢床。

昭和14年10月3日（火）

昨朝よりは雲霧多き模様。足袋会社前を橋を渉り、渡辺町一丁目より一直線の大通りに出て、之に沿ふて南下す。途中より道は半分位に狭くなる。筑紫中より一二丁目位大橋沿いに行きたる所にて合す。既に三十分を過ぎてあ

り。塩原を経て橋の手前より左折し、川伝ひに帰宅す。久子早出。注文票は荒戸町局より送付せしむる旨、岸田氏より武藤へ電話ありしと云ふ。一二等、三等共、夫々伝票を異にするものの如し。原川義次氏、浦田勤之進氏連名にて、三十日附け葉書にて礼状発送、二日配達。ワイシャツ等アイロンかけて貰ふ。剃刀研ぐ、食後髯剃り。澄子に顔剃りして貰ふ。前例の如し。

昭和14年10月4日（水）

朝来曇り。昨夏の木綿襯衣とズボン下、幾ら探せど見当たらず。メリヤス上下を着用して、帽子も冬のを出し夏のを蔵?う。昨夕食の残りと素麺の残りとを頂き、分鉛?をも携え二十分出発。新聞は福日を買う。午後より漸次晴れ。ベンキー回座り、目標持行きてあらず。此日風呂沸き、入浴後夕飯。慰安会福岡行き、是永氏断る。野口氏のみ連行のこととす。

昭和14年10月5日（木）

今朝未明より降雨、長靴和傘翳して出局す。午前中歇む。五時販宅時には道路乾く。割合温かく汗ばむ。夜寝床前、冷水にて体を拭く。此日巖帰宅遅る。集金方法此日より実施のこととなり居るに、受領証の到着を俟ち数日を経過したる揚句、従前の方法に依るべき旨通知あり。急に多忙を極むるに至りし旨の咄あり。多分葉書持来し能わざりし弁解もありしらん。

昭和14年10月6日（金）

二郎より10月2日附け速達便封書、福岡より回付越す。平支所長拝命の旨通知あり。五時過ぎ販る。巖販宅し居

れり。二日分受領証整理、九時頃まで愛子手伝えず。野口氏福岡行き準備に、十時近くまで多忙らし。此夜も例に依り小母車に子守りする筈を、信子早く眠り、智子に夕食を与えなどする内、機会を失し珍しく外出せず。

昭和14年10月7日（土）

八時五分出発。駅に行き回数券求め出局。栄町長臨局。午後一時二十分出発。野口氏0時より買物に行き、仕度し其の儘出発。バスに乗らず徒歩販宅。夕食後髯剃り、柳原先生かかり行く。裏門閉鎖、不思議に感じ尋ぬ。先生旅行中の由、空しく販る。

昭和14年10月8日（日）

曇天、八時出発。城南線を高等学校前下車。水上公園を西公園に出て、岩田屋の中を通過して九鉄にて太宰府往復切符64求め、十時発車。太宰府神社参拝、梅を粉にしたもの瓶詰め40を野口氏に遣る。十一時半福岡着。岩田屋防空展を見て、松屋に至り午餐。松屋鮓40を希望により馳走して玉屋に至り、四時前川端のブラジル珈琲15各一杯飲み、天神町を通れば、久子呼ぶ手招きす。乃ち久子にミツ豆、余は牛乳馳走を受け、木村家より局へ土産としてパン40を求め、市場を一巡販宅。夕飯萩の餅を頂く。久子販り、先刻注文せし鰻屋の小母さんに菓子31を持来す。野口氏に托す。九時半寢床。新聞を見る暇なし。此日雨ぽつぽつ降り初めたる如きも歇み、曇天の俣持続す。野口氏玉屋にて反物を漁りしも、何も買わず。只土産子供に水書き草紙15、木工具10、菓子30、外に久子に50銭分注文したるのみ。

昭和14年10月9日（月）

曇り、朝は時々晴れ、三時頃より模様悪くなる。野口氏七時三十分出発、余送りて駅まで行く。福日求め、電燈の笠10古物屋より求め帰る。道子正岡氏と市場に行きたる後、澄子より姉さんの為に筆筒鏡台をねだる。上田谷地より御金をとれと云ふ。少時して道子販り来たり、再び正岡氏と散歩後にて聞くに、高宮踏切まで赴きたる由。澄子の発意に赤葡萄酒15求む。自分等も同量買ひたり。手紙書き。

昭和14年10月10日（火）

二日間外出取止めたるを、此日復活。五時二十分出発。大橋まで行きたり。途中塩の原神社にて国防婦人多数参列、出征兵士を送る為、武運長久祈願万歳三唱、冷酒を汲交わして、一同停留所に見送るらし。六時五分大急行にて販る。三十五分。久子早出、朝食を摂り出て行く。此朝甘藷蒸し。新聞を下にて見て、申又洗濯。洋服冬物修理を頼む。夏服襟を直す為、五円程かかるらし。此の分と合わせ相当の出費となる。モーニング等を長持ちに仕舞ひ貰ふ。読書新聞より78銭剩金通知に接し、道子の希望に依り、江部鴨村积迦一代記を注文す。78銭及び1, 21付48、計1, 26に対し、更に一冊追加。尊徳、道奇解説士?の文学にて満額?となる。夕方五目飯。髯剃り、澄子にも加勢に預かる。曇天、少し暖か過ぐる感あり。夫れでも洗濯物乾く。此の日、久子に依頼せし美濃判紙20枚購入来る。代金三拾銭、壺枚に付き一銭五厘、高騰振り驚くの外なし。夜葡萄頂く。

昭和14年10月11日（水）

三時十分起床、甘藷残少数を紙に包み、野口氏に昼弁時に与ふべく携帯す。金光教秋季大祭参拝団にて小倉よりの汽車は賑わう。大分及び犬飼両団体とす。午後三時頃より降雨。中尾氏大阪甚十郎氏、朝鮮より一ヶ月の予定が二ヶ月になり、成子さん困って居るから誰か大阪に行つて呉れとのことに、十一日大阪に行くことあり。河野稔久??氏より珍しく来翰。二郎の平支所長任命を祝福し、近況通知越さる。長男は田川中卒、門鉄技術員養成所入所、十月十三日卒業の由。繁子は女学校二年在学とあり。午後五時三十分飯る。野口氏50銭玉床上に落とし、幾ら探しても発見せず。余は其れを見送り飯る。後より聞きしものなるも、遂に其の俣となると。

昭和14年10月12日（木）

朝来降雨、長靴和傘にて出勤。朝は両児に飯を与え遊ばせて、八時十分前後出発することにし居る。此朝傘は遂に翳さずに御伴にす。其の後多少降りし模様なるも、間もなく歇み、飯宅の際は道路も乾き居る。此日風呂沸き、智子は小母車に、信子は眠りたり覚めたる計り。両児を入浴させ、余夕食の間、野口氏両児に摂食。此日外出せず、余の部屋にて子守りす。中尾氏に神慮出掛けること不叶と断る。

昭和14年10月13日（金）

勤務状況調査発送、其の副本罫線を抽き写して作ることが、容易ならぬ仕事として終日働きたり。晴れ、時々曇り。野口氏より旅費1,38銭受取る。慰安会費8円程払戻し、各自分配す。巖申込書参通、余に渡す。此日も夜

外出せず、両児を余の部屋にて遊ばす。

昭和14年10月14日（土）

快晴、盛夏の思ひあらしむる熱さ。年金六円受取り、午後一時二十分出發。車内混雑、立ちん坊可なり多し。陽光の陽入る窓は、簀（すのこ）戸を閉ざしあり。イレバ着用余一人のみ。汗滲む。五時飯り、直に水浴す。今夜の光友会は故山崎氏の慰霊祭にて、同氏邸とせられあり。余行かず。新聞を見る。此の日汽車中にて、行橋にて福日新聞を求め、飯りてからも朝日新聞を見、十時近くまでかかる。

昭和14年10月15日（日）

五時半より托鉢。山崎氏の菩提寺（小供所町）に至る門扉、閉ざされ明かず。松尾氏と途方に暮る。栗原氏来られ少時して開扉。納所に廻り掃除初む。桑原氏も見ゆ。七時二十分、更に桑原氏六番行に移る。余は独り辞去。朝食中雨降り出す、漸次本降りとなる。此日筑紫中、修猷中運動会。早朝より郊外に家族連れにて出掛ける者多し。隣家でも筑中運動会に行かれた様子。此等は如何にせられたるらん、他人事ならず心配さる。昨夜は暖かにて蚊の襲撃に悩まされたるが、異常の暖かさは遂に本降りを招きたるらし。久子昨休暇、葡萄20求め皆と一緒に頂く。今日は冷涼。簗島停留所附近、古道具屋に電気炬燵あり。値を先方より尋ねらる、4, 30から4, 40と答え置きたるが、調べて見ると4, 50なりし。6, 5にて売ると云ふ。夜蚊出て大分困りし。夜雨歇む。

昭和14年10月16日（月）

夜半より雨、終日降り続く。豪雨の時もあり。外出せず、朝も散策出来ざりし。久子早出。光誌読了。十一月燈影座一行、天香氏九州に下らるる由。十四日夜の打合会も主として其のことにありし由なるも、柳原先生見えられず、決定に至らざりしと云ふ。山崎氏より百円寄贈あり。松尾氏預かり居ると謂はる。台風九州に接近し、今夜鹿児島宮崎沖を東北東に進行するらしく、大暴風雨の恐れありと云ふ。中心示度720、参百料以内暴風雨とあり。二郎よりの手紙、引越し荷物50余、平にては炭坑より人夫来て手伝い呉れたる由。久子はオーバを強請したらしく、欲しければ、旅費も遣りオーバも買って呉れるから来いと云ふ。誰も行かむと謂う者なし、余にも来て呉れと申越す。

昭和14年10月17日（火）

神嘗祭。午前中降雨より曇りに、漸次霽れ、碧空表わる。夕方風漸く収まる。澄子葡萄購ひて来ましよう、催促し来る。20銭与ふ。葡萄と林檎3を持来す。夕方例の古道具屋に至り、電気炬燵2、50と云ふを2、00に負けらして、偕（さて）重宝器、亜米利加製のあり。是れは17円と云ふ。古物として11、00円にすると云ふ。余の所持する山内式のは3、80銭にて求めたるもの。成程、製作に内地と比較にならぬ勝れたる点はあるが、余り高価に一驚せり。余の山内式を持参し交換せんとす。五円を以て承知し呉る。販りて良く考ふるに、夫れは不当の高値と認め再考に決す。電気炬燵は確かに安し。十時半寢床、冷ゆ。

昭和14年10月18日（水）

四時起床。五時二十分、那珂河沿いに上り井尻に出て、更に五十川を経て竹下に至り、飯宅。七時五分なりし。此日快晴、碧空一点の空なし。下帯洗濯。電気炬燵は塵埃内部に堆積しあるに付き、外函を取外し掃除す。下駄の緒をすげたり。外套シャツ等、陽に晒す。昨夜神様に賽銭として時々納入の紙函を検したる結果、1、61、内65は白銅10及び5、他の96は一銭銅貨のみ。銅貨全部は澄子等に与ふ。貯金にせよと申渡す。市内全部休業。新聞紙も朝刊休み。本日より靖国神社臨時大祭。昨夜神霊奉祠鎮魂の儀、取行わせらる。各遺族参列、森巖吐重ラジオを通じて窺はる。九時寝床、足冷え電気炬燵利用す。

昭和14年10月19日（木）

昨快晴に比し、朝来雨模様。五時四十分外出せんとしたるに、雨降るらしいのに戻り、体操を始む。今日四時四十分起床の結果、体操を廃し外出せんとせしものなり。六時三十分階下に赴く。澄子寝て居る。之を起こす間もなく降雨、姑（しばら）くして歇む。午後道子国債500円二枚支払い開始、9、1利子皆無に付き反故扱いにして居る。千円受取れる旨咄したるに驚喜して居る。箕島局にては、外の局に持行けとて支払わぬ。俺が受取遣わす、其の代わり百円国債六枚購入を慫慂し、同意せり。中津駅前へ前記国債六枚調達方通知す。年金参円受取らしむ。次いで古道具屋に至り、重宝器1、50を入金して、舶来のを取換え来る。粉を磨くには重宝器程細微とならぬ憾みありせしも、他は質に於いても機械的にも優秀と認む。飯りに角のふじや洋服店に立寄り、修繕方依頼せ

しに、承知し呉る。乃ち澄子に話し指行かしむ。道子指行く。非常に安く取計らい呉る。冬夏二着頼む。澄子は古物の修理はせぬだろうと、容易に確かむるを肯（がえん）せず。遂に余自ら出掛けたるもの。午後より天気恢復の兆しあり。八時過ぎ二人風呂行き。今日足袋、ズボン下用ゆ。昨読書新聞社より、釈迦一代記のみ発送す。一日にて道子読終わり、今日余読み初む。半分に至らず。九時半寢床、電気炬燵を使用せず。

昭和14年10月20日（金）

午前四時前起床。五時三十分外出。道路暗黒の中を竹下を経て東光寺橋を経、川筋を上り、那珂第二小学校前を通過。県道を左に、更に北門を上流に遡る。途中より引返し再び竹下に出て、七時五分帰宅。久子既に出発し、居らず。朝の修養を聞き行事を済まして、一緒に朝食。午前十時十五分、天皇陛下靖国神社行幸、御参拝。此時刻全国民一分間黙禱、戦死英霊に感謝す。風寒く、晴れたり曇ったり。裸体陽光に浴す。四時頃より甚だ寒し。世界一周飛行号、午後一時四十七分壮挙を終えて、無事羽田飛行場に着陸。歓迎の人波にて埋め尽くす盛況と報ぜらる。早く休む。階下では風呂に行ったらし。冷却、電気炬燵暫時使用す。

昭和14年10月21日（土）

四時起床。五時三十分停車場に行き、新聞福日を求め販る。土曜日記事を必要としたればなり。鐘を撞く音、火見櫓設置の向かいは、悉く叩く消防手を動員の警報と見ゆ。今日より四日間防空基本訓練。砂と水とを準備せよと注意あり。昨日より今朝にかけて東北地方降雪の報あ

り。前年より八日間位早しとあり。久子晩飯りが六時過ぎ
飯る。矢張り防空演習の為なりとあり。燈火管制やらざり
し。真の郷に欠席せしは、暗闇で困ると思ったからなる
が、遂に其の事なかりし。行けばよかったと思ひぬ。夜
冷え、電気炬燵少時使用。

昭和14年10月22日（日）

四時少し前起床。五時二十分出発。井尻より諸岡を経、
小溜?を辿りて帰る。七時十分まで費やす。八時近く朝食。
理髪。釈迦一代記読了。顔剃り貰ふ。頃日甘藷あり。靴
磨きす。快晴、裸の俣光線浴。珍らしき暖かさなり。今
日の大朝阪急百貨店、書籍廉売七十均一中、至誠堂新
漢和辞典及び貝原篤信填思録講義あり。安いと思ひぬ。
来月八日寶満山登山福日主催にて決行の由。

昭和14年10月23日（月）

曇り、三時起床。五時二十分発、電車来たらず。定刻着。
此の日永江氏、門司行き不在。午後六時猶飯宅せず。
夕飯時坊ちゃんに是永氏世話す。余も心配し、是永氏の
為に汽車弁を与えんとしたるも、是永氏遮り辞退す。余
も強いて争はず飯宅。此の日より蚊帳を廃す。福岡地方
より幾分遅れ居れり。

昭和14年10月24日（火）

朝降雨、傘携行。正午頃雨歇む。陽光を仰ぐ、余程暖
かなり。佐藤血違磨氏、万朝報記者と称する者、会津人
なる由にて、村上局長より電話あり。電話も設置の儘、
一度も使用されずでありしが、今回口火を切った立場に
置かれたり。間もなく佐藤氏来局、一時間咄して退出。

来月三日講演すと云はる。野口氏余より先に販り、何れにか立寄りし如く、余販宅するも姿を見せず。

昭和14年10月25日（水）

本格的防空演習、21日より24日は基本訓練。恩給受給者山縣勘次の勘の字、改竄（かいざん）の根跡ありとて、給与金受領証を返送ありしを以て、余取調べに出掛くるに、下宮永とあるも沖台正当なりとて集配手教えて呉れたり。鶴居までの行程なしと云ふ故、ぐんぐん行きたるに五丁程進み過ぎたり。「ここは間田と称する部落なり。沖台とは田の名称かと反問さる。蓋し沖台の名称は、平地一円を沖台平野と称せしものにて、部落名にあらずと知りぬ」。逆行、前後一時間余りを費やして埒明きぬ。下宮永に火の見櫓あり。其の下に消防員等多数警戒。是れも防空演習に相応わしき異彩なり。販局して身体を拭ふ。小春日和の快晴とて流汗す。販れば風呂沸く。夕飯後、巖の後に赤坊と共に入浴。七時半降雨。五時頃より天気悪くなり、遂に降り出す。麻生局長臨局、公衆溜まりにて挨拶、退出。

昭和14年10月26日（木）

電信及び通話、此の日より開始。四時起床。一時間早き為、三十分間小母車に赤坊を遊ばす。朝七時開始。四時に起こして呉れる様との野口氏の注文に、此の日より四時起床せしもの。雨降りつつあり、一時間計りにて歇む。十時頃より晴天となる。村上局長、奥畑、中島両主事臨局。会計検査員此の日引上げて駅まで送り、序でに立寄りしものの如し。中島主事更に明日臨局の旨、予告あり。六時販り、此の日は外出せず。余、局より販りが

け、駅弁屋に弁当三つ注文。自祝の意を表す。

昭和14年10月27日（金）

朝中島主事（十時頃）臨局。十一時逡信局購買掛、竹の皮を購入斡旋方申し入れ、此の日来局の由にて時間までに引き上げらる。茶菓子求めたる儘、出さずに終わる。余退局後、局員に振舞う。六時販宅、途中よりポツポツ雨降り初む。時々歇みては復た降る。大降りにならぬ中に辿り着きぬ。

昭和14年10月28日（土）

快晴、珍しき上天気。午後二時十分、防空演習終了。此の間巖一回出勤。建ちゃんの父親が不敬?の挙措ありしとかにて、奮慨し居たり。其の為か次の日出勤せず。風呂沸き、余の販り遅かりし為、巖赤坊まで入浴せしめ、余は夕食後単身入浴。是れ亦、頗る珍しき現象なるも、嬉しとも思いざりし。

昭和14年10月29日（日）

快晴。野口氏出勤。余も出局。地況調査報告に取りかかる。窓口に妙な女来たりて、亭主や子供の不都合を駢（なら）べ立て、息子が八幡の鉄道に出て居る土曜日に販って来る筈なるに来たらず、心配故行って見ようと思う、給料も入れぬと苦説く。果ては旅費を、通帳を担保に貸して呉れと云ふ。取り合って居れば果てしなく饒舌す。調査之れが為に遅る。五時過ぎまで居残り、不符合の儘、販る。此の朝、余赤坊に乳呉れ片付ける際、瓶を破る。巖自転車にて逸早く購入し来る。余の責任故、弁償せんとする気配を察しての挙措と認む。余代償の意味を含め、

林檎を野口氏に求め遣わす49。此の日巖、朝吹氏と共に柳浦まで赴く。夕食後、愛子等食事中販宅。赤坊二三日来再び腸胃を害し、牛乳に重湯を混ぜたる時代に復歸す。此日栄町局長臨局、色々指導を受く。

昭和14年10月30日（月）

晴れたり雲ったりの天候。地況調査提出。

昭和14年10月31日（火）

曇り、巖少し早く出発。申込料金徴収は此の日を以て打ち切らるるに付き、馬力をかける為、高田方面に赴きし由。六時販れば、風呂沸かし赤坊も泣き居るに、夕食も遺れぬ有様。余匆々に仕度を解きて、赤坊を湯に入れ、和博も入れた。悦子は夕食を待兼ね食はずに睡る。之を床に移し夕食の仕度にかかる。余赤坊に食事を摂らし次いで眠らす。容易に眠らず。愛子代わりて睡らす。余其の間に夕食を摂る。野口氏販り、巖も販宅。野口氏は八時閉局まで居残り、朝も七時まで出勤。必ずしも楽ならず、家の方援助出来ぬとて咎むべきに非らず。巖夕食前入浴。ラジオ申込み十件を獲たりと。余寝る前再び入浴。頗る冷ゆ。此日鶴居長より行賞資料報告方に付き電話あり。今津及び市内各局へ、当局より通知方依頼あり。一つ松、栄町局長不在、後刻照了。